



MUSASHINO Vol. 121 for TOMORROW

巻頭

「音」にこだわる舞台上演翻訳

小田島恒志 (英文学者 / 翻訳家)

特集

江古田新キャンパス
堂々竣工！

江古田新キャンパス リストブラザ

April 2017
vol. 121

伝統と先進が 響き合う未来へ

～平成29年度を迎えるにあたって～

武蔵野音楽大学学長 同附属高等学校校長 **福井直敬**



一昨年来、本学園“江古田新キャンパスプロジェクト”により鋭意建設を進めてまいりました武蔵野音楽大学の新校舎が滞りなく完成し、いよいよ平成29年度から運用の運びとなりました。

工事にあたり、多くの皆様から物心両面にわたるご支援、お励ましを頂戴し、身に余る光栄であり深く感謝申し上げます。

戦後、18歳人口が最盛期にあった昭和40年代に開発を行い、昭和51年からこれまでの40年間、大学低学年の授業を行ってきた、自然溢れる埼玉県の入間キャンパスを離れることは感無量ではありますが、交通至便な江古田キャンパスで、全学が一体となって教育研究に取り組むことは、教育上もまた経営上も極めて効率的であり、大きな成果が期待できると確信しております。

新キャンパス中心の“リストプラザ”(サンクンガーデン)を囲み、機能別に配置された校舎群は、教職員と学生の和やかな会話や交流を生む“音楽の街”をイメージしています。また、諸外国の公的機関から寄贈された楽聖像やステンドグラスなど、旧校舎から受け継ぐ品々が随所に配置され、感性を培う音楽学生にとって不可欠な美的環境を醸し出しています。

さらに、わが国で初めて本格的な音響設計を行ったコンサートホールの一つであるベートーヴェンホール、及びそのステージ上に設置された、これもわが国最初的大型コンサートオルガンは、歴史的にも意味があり、歴代教職員、学生たちが慣れ親しんだ憧れの場所でもありますので、伝統の象徴として耐震工事を施した上で残すことといたしました。

一方、新校舎の誕生と併せて、音楽学部の学科組織を全面的に改編・統合し、 Semester制のもとで専攻分野についての専門科目の充実を図るとともに、選択肢を大幅に拡げて分野を横断した科目群を配置し、学生諸君がそれぞれの希望、能力、進路等によって、自律的にカリキュラムを編成できる仕組みを工夫しました。

“新しき酒は新しき皮袋に盛れ”との言葉がありますが、このたび立派な施設、設備を手にした私たち大学関係者一同、如何に充実した教育研究を行うかが問われることとなります。校舎新築と時を同じくして開始される新しい教育体制のもとで、私たちは気持ちも新たに、この大きな責任を果たしてまいる決意しておりますので、皆様には倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「音」にこだわる 舞台上演翻訳

小田島恒志
(英文学者／翻訳家)



小田島恒志 *Koshi Odashima*

1962年東京生まれ。早稲田大学博士課程、ロンドン大学修士(MA)課程修了。早稲田大学文学学術院教授。1995年度湯浅芳子賞受賞。主な舞台翻訳作品；『GHETTO／ゲットー』『エヴァ、帰りのない旅』『ニュルンベルク裁判』『欲望という名の電車』『パッファローの月』『コミック・ポテンシャル』『ディファイルド』『海をゆく者』『アルカディア』『コペンハーゲン』など。共訳書；『エミリーへの手紙』『ビューティフル・ボーイ』『天国の五人』など。

音楽と演劇はともに舞台芸術であり、音楽における楽譜は演劇における戯曲と言えるのではないのでしょうか。小田島恒志さんは、シェイクスピア全戯曲の翻訳で著名な小田島雄志氏のご子息であり、父上と同じ英文学者、翻訳家として活躍されています。今回は、「音」にまつわる戯曲翻訳の裏話を披露してくださいました。

父の影響を受けて

戯曲の翻訳に興味を持ったのは父の影響に他ならない。父、小田島雄志はシェイクスピアの全作品を含む130本以上もの戯曲を翻訳して舞台に載せてきた。その中の一つ、『夏の夜の夢』の翻訳舞台を見たときは衝撃だった。ラストシーンで妖精バックがこう口上を述べる――

我ら役者は影法師
皆様方のお目ごもし
お気に召さずばただ夢を
見たと思ってお許しを
つたない芝居であります
夢に過ぎないものですが
皆様方が大目に見
お咎めなくば身の励み…

七五調のリズムに乗って、しかも2行ずつ韻を踏んでいるのだ。

この芝居には、バック以外にも妖精の王オーベロンや女王タイテニアなど妖精が大勢出てくる。他に、アテネ大公をはじめとする身分の高い人間たち(宮廷人たち)と、ボトムら身分の低い人間たち(職人たち)、と登場人物が三層に分かれているのだが、シェイクスピアはそれぞれのセリフをそれぞれに相応しく書き分けている。妖精は2行ずつ脚韻を踏む韻文、宮廷人たちは時に脚韻を踏む韻文、時に脚韻は踏まないがリズムにのった無韻詩と呼ばれる文体、職人

たちは散文、といった具合に。これを父はそれぞれに見合った文体の日本語に訳し分けたのだ。実は、引用した口上だけでなく、芝居全体を通じて、妖精たちのセリフはすべて2行ずつの韻を踏んだ七五調で訳されている。

1975年、帝国劇場で木の実ナナさん演じるバックがこうしたセリフを口にするのを聞いた当時中学生だった僕は、その何とも耳に心地よい言葉の響きに魅了された。と同時に、戯曲を翻訳するという父の仕事にも興味を持った。単なる言葉の意味を訳すというのではなく、観客の耳に音として伝わる言葉に訳すことの巧みさと面白さにである。

その後、同世代の普通の人たちよりはかなり舞台を見る機会に恵まれていたとはいえ、必ずしも演劇の勉強に励んだわけではない僕が戯曲の翻訳に関わるようになったのは、学業を終え、教壇に立つようになってからである。もっとも、大学院生時代から、父とは関係のないところで、いわゆる「下訳」のアルバイトはしていたのだが、当時、多くの翻訳の仕事を抱えていた父から「共訳」という形で手伝わないかと誘われて、加藤健一事務所公演『ラン・フォー・ユア・ワイフ』(R. クーニー作)を共訳したのが、いわば、翻訳家としての「メジャーデビュー」だった。武蔵野音楽大学のすぐ近くに稽古場を構えるあの加藤健一事務所である。

パパ、I LOVE YOU !

『ラン・フォー・ユア・ワイフ』で、自分の訳したセリフを舞台上で役者さんが口に、それを観客が楽しんでいるのを見るのは、何にも代えがたい喜びで、この仕事に病みつきのようになった。さらに、同じ作者による『パパ、I LOVE YOU !』という作品を父と共訳した後は、父から「免許皆伝」



▲ 舞台『パパ、I LOVE YOU!』より。加藤健一さん(左)と角野卓造さん

撮影：谷古宇正彦

と言われて一人で訳すようになった。これは前作同様、いわゆるドタバタコメディで、具体的に訳例を書こうと思うとどうしても下品なセリフしか思い浮かばないのだが、敢えて一例だけ示そう。

主人公は総合病院の勤務医で、昔、同じ職場にいた看護師との不倫の末にできた子供が、父親の存在を知って病院へ乗り込んでくるという。この事実を周りの人間から隠すために、この医者は「あの人は××さんという人で…」「私は医者ではなく痛風と痔を患っている患者です」などと次から次へと嘘をつきまくる。後に同僚の医者「全て嘘なんだ」と告白するとき、こんなやりとりがある――

ヒューバート：…じゃ、ヒマラヤで
遭難したのは？

デーヴィッド：あれは口からの出ま
かせだ。

ヒューバート：二番目のご主人って
のは？ 痛風を患って
いるMr. レズリー？

デーヴィッド：それも口からの出ま
かせだ。

ヒューバート：じゃ、いぼ痔っての
は？

デーヴィッド：それは〇〇からの出
ませだ…

あまりに下品なので、この〇〇の部

分はご想像にお任せしたい。これは、痔という病気の英語が pile という単語なのだが、pile には(物の)堆積とか杭などの意味もあり、ここで訳した「出まかせ」の英語は rubbish (= ゴミ、くず、戯言、でたらめ)で、一つ一つ「それは嘘 (= rubbish) だ」と白状していき、最後に「じゃ、pile するのは？」と聞かれて「piles of rubbish (= ゴミの山、嘘の山)」と答える、という原文の洒落を何とか日本語で出そうとした結果の「お下品訳」なのだ。とにかく、耳で聞いて分かる表現にしたかったのである。

こうした戯曲翻訳を続けていくうちに、この「音」にこだわる翻訳作法を改めて確認する出来事があった。

同じく加藤健一事務所の公演『詩人の恋』(J. マランス作)の稽古場でのことである。

詩人の恋

『詩人の恋』は同名のシューマンの連作歌曲をモチーフにした音楽劇である。ウィーンにいる偏屈な声楽教師とそこを訪ねてきたアメリカの若いピアニストの二人芝居で、課題曲「詩人の恋」の伴奏をつけるには歌への理解が必要だと、ピアニストに歌を教えていく、という物語である。実は、セリフとは別に何曲か歌を訳さなければならない戯曲なのだが、そこはその道のプロに任せようということで、訳詞の大御所、岩谷時子さんをお願いすることになった。

ある日、江古田の稽古場に現れた岩谷さんは、ご自分の訳された歌を声楽教師役の加藤健一さんと若きピアニスト役の畠中洋さんが歌うのを熱心に聴いていた。「…目覚めても／涙あふれ／頬をつたい落ちた…」というところで岩谷さんが反応した。そして、何度か歌を聞いた後でこうおっしゃった。「どうしても、頬をつたい落ちた、の『つ』の音が聞こえにくく



▲ 舞台『詩人の恋』より。加藤健一さん(左)と畠中洋さん

撮影：石川純

て、『たい落ちた』と聞こえてしまう。曲の関係でそうになってしまうのは仕方ないけど、なんだか柔道の『体落とし』みたいになってしまうので、言葉を変えましょう…」そして「…目覚めても／涙あふれ／頬を流れ落ちた…」と変えられたのだ。これには教えられた。稽古場で、役者の声を実際に聞いてセリフを（ここでは歌詞を）変える、翻訳者はそこまで音にこだわるべきなのだ。

実は、僕も音楽もミュージカルも大好きなので、歌詞の翻訳にも何度か挑戦してきた。と言っても、これまで舞台上に上ったのは『PIPPIN』と『ミュージカル・ハムレット』の2本だけだが、岩谷さんとの共同作業のおかげで訳詞のプロの仕事に舌を巻いた僕は、その後、ミュージカルの歌詞の訳はその道のプロに任せて自分はセリフの部分だけを訳す、という仕事をいくつかするようになった。先ごろ2016年度の読売演劇大賞最優秀作品賞に選ばれた『ジャージー・ボーイズ』（M.ブリックマン & R.エリス脚本）もその一つである。

ジャージー・ボーイズ

『ジャージー・ボーイズ』は伝説のコーラスグループ「フランキー・ヴァリとフォーシーズンズ」の伝記的物語なので、出てくる歌もすべて誰もが聞いたことのある実在の有名なヒット曲ばかりである。これを訳詞家・高橋亜子さんが実に見事に、美しく訳してくれた。それに比べるとセリフの訳は楽なもの、と思っていたら、思わぬ壁にぶつかった。

「I GO APE」という歌がある。「君は盛り上がったらどうなる？」「I go ape（直訳だと猿になる＝異常に興奮する、頭がおかしくなる、夢中になるの意味）！」というセリフのやりとりの後に始まる歌だが、歌の中で繰り返される「I go ape」というフレーズを音に乗せて高橋さんは「燃える」と訳していた。これはうまい。変えようがない。ところが、これには歌いながら猿の格好をし、しかもこれが客にウケず、「お前なんかその猿の衣装をもってとっとと出て行け」という話が付随しているのである。創作物語なら「燃える」に合わせて「炎の格好をする」などと設定を変えることも考えられるが、これは伝記的事実でもあるので、そこまで書き換えるわけにはいかない。結局、苦し紛れに、歌に入る前のセリフを少し長くして辻褃を合わせた。「君は盛り上がったらどうなる？」「猿みたいに興奮して、燃える。燃えてこう、エテ公！」これで何とか話がつながった、と思う。

コラボレーション

音にこだわって訳す、というのは「どう聞こえるか」を常に意識して訳すということになるのだが、こうして共同作業で訳すとその効果は一層高まる。最近、上演用に戯曲を妻、小田島則子と共訳することが多くなった。加藤健一事務所で上演した『コラボレーション』（R.ハーウッド作）の



▲ 舞台『コラボレーション』より。加藤健一さん（左）と福井貴一さん

撮影：石川 純

共訳はまさにタイトルの通りの共同作業だった。

これは、刻一刻とナチスの体制になっていく時代に、シュトラウスとツヴァイクが「コラボレーション（共同作業）」して、オペラを創っていった苦悩と奮闘の物語である。ここで、ツヴァイクが作品の構想を語る中でこういうセリフがある――

…無言劇が行われているところへ、人の声が、それも内なる高みに到達した声が聞こえてきて、無言劇は唐突に終わります。そして、恐ろしいほどの美が出現します…観客は、この世で最も崇高な楽器、つまり人の声、を耳にして衝撃を受けるのです。

実は、先に触れた『詩人の恋』の歌の場面でも、音楽教師が「沈黙をよく聴いてから歌え」というセリフがあった。こうしたセリフを訳していると、音にこだわって訳すということは、無音である無言の箇所も訳す、ということに思えてくる。夫婦の間で「無言」の解釈を巡って共通理解を探るのは結構スリリングな作業だ。が、それもまた楽しい。

ベートーヴェンホールでの ステージでの神事

武蔵野音楽大学の江古田新キャンパスがいよいよ完成し、それを祝福するかのような晴天に恵まれた2月13日、竣工式が実施されました。まず、改修されたベートーヴェンホールステージ上に設えた式場において、学園、設計・施工を担当した株式会社大林組、および工事関係者列席のもと神事が厳かに執り行われ、建物が無事に完成したことを感謝し、今後の加護を祈願しました。

その後、リストプラザに面したキャンパスレストラン『Intermezzo』に移動。本プロジェクトに携わった関係者への慰労の意味もこめて直会(なおらい)が行われました。

冒頭、本学園の福井直敬理事長が挨拶をし——教育・研究の場を江古田キャンパスに統合し、今後50年、100年の使用にも耐えうるキャンパスを実現するため校舎の全面的な建て替えを決定した経緯。音楽大学という多様性が求められる建物を、閑静な住宅地に期間内に建てるという難事業を見事に成し遂げてくださった大林組への感謝。物心両面でプロジェクトを支えてくださった学園関係者、同窓生への感謝。工事期間中、ご理解を頂いた近隣の皆様、勤務地の異動などご苦労された教職員へのお礼。そして、完成した立派な建物を活用して質の高い教育・研究を行い、優れた研究成果を挙げて社会に貢献していく決意などを述べました。

挨拶の後、理事長から大林組 白石達社長へ感謝状を贈呈。大林組からは竣工記念としてキャンパスレストラン



▲ 本学 福井直敬理事長



▲ 厳かに挙行された神事

の壁にイギリスの著名な作家によって描かれた斬新なイラストが贈られ、その目録が学園に手渡されました。

白石社長からは、竣工の祝辞とともに「学園の一時代を画する工事に参加させて

いただくだけでも大変光栄なうえ、感謝状まで頂戴し心より感謝申し上げます」というご挨拶をいただきました。

続いて、白石社長のご指名により設計本部 本部長室の山本朋生室長(現執行役員・本部長)にお話しいただきました。

「プロジェクトの開始当初より、定例会議を頻繁に行い、その数は200数十回にも上りました。理事長は、そのほとんどに出席されました。それらの会議、さまざまな打ち合わせにおいて、大学の皆様が常にとても熱心だったことが印象に残っています。そして忘れてならないのは、我々が一番深く関わった副学長です。お忙しいにもかかわらず、定例会議以外にもお話をする機会を数多く作っていただきました。この新キャンパスは多くの皆様のご意見やご要望の結集であり、結実したものです。今後ともこの建物、キャンパスをご愛顧いただき、末永



▲ 株式会社大林組 白石達社長



▲ 和やかな雰囲気のうちに行われた式典

く使っていただきたいと思います」

工事現場の責任者である今井幸弘工事事務所所長からも、ご挨拶いただきました。

「今回が所長として10番目の現場でしたが、全てにお

いて最も胸に熱いものを込み上げさせてくれた現場が今回のプロジェクトでした。竣工すれば当然、事務所は解散します。重々承知しておりますが、なぜか今回は寂しくてたまりません。音大様に新しい工事をご発注いただき、また所長ができたなら…なんてことを考えてしまいます(笑)。大学様の『伝統と先進が響きあう未来へ』というコンセプトで完成した建物です。次の時代に生きる若者が、学び、活躍することを祈念するとともに、この建物を末永く可愛がっていただきたいと思います」

そして、福井理事長の乾杯の発声を機に、宴は和やかな歓談の場へ。長期プロジェクトゆえか、あちらこちらで盃を交わし、笑顔で語らう様子が見られました。



新キャンパスに託す さまざまな想い

しばし楽しい時間を過ごしたのち、閉会の挨拶は福井直昭副学長。計画の立ち上げからこの日に至るまで、プロジェクトの先頭に立ってただけに、お話はとても気持ちのこもったものでした。大林組の方々と、2011年から足掛け6年、設計定例会議や総合定例会議、図書館・博物館・音響などの各分科会、その他もろもろの会議で、約2000時間一緒に過ごした間の出来事。60のホールを見て周った2013年ヨーロッパ5ヵ国への視察旅行や2016年キャンパス外壁を彩る特注タイルの製造工場への視察などの話。これまで実にさまざまな、数限りない武蔵野側からの要望・要求を、大林組の設計、施工の皆様が受け入れて下さったことへの感謝。ブラムスホール他を監修して下さった(株)永田音響設計をはじめとする関係各社への謝辞など。随所にユーモアを交えながらも情感溢れるスピーチは次のように締められました。

「これ程までに多くの関係者が集まったプロジェクト

もないと伺いました。新キャンパス建築という二度とはない機会、数多くの関係者が建物をつくるという一つの目的に向かって結集し、非日常的な祭りのような空気を醸し出す、一種特別な場に関われたことに感謝します。そしてついに竣工を

迎えた訳ですが、竣工の喜びと同時に、大林組の皆さんとの大変だったけれど充実した熱い日々、それがもうすぐ終わってしまうと思うと、実は今、寂しさでいっぱいです。工事現場では最盛期に1日600人、平均300人から400人の職人の方々が、朝から晩まで働いてくださいました。本当に多くの方々が、毎日頭を振り絞り、汗を流してくれたおかげでこのキャンパスができたことを学生に伝え、大切に、大切にこのキャンパスを使うよう指導していきたいと思います。建築というものは、何も無いところに建物ができ、そこで人々がイキイキと生きることによって初めて成立するものです。我々教職員は、一人でも多くの学生がここで4年間、イキイキと過ごせるように音楽教育を通じて努力を傾注いたして参ります」



▲ 本学 福井直昭副学長

副学長発声のもと出席者全員で実に勢いのある三本締めをし、希望に溢れた雰囲気のなか閉会となりました。



▲ (株)大林組設計チーム及び(株)永田音響設計の方々と副学長



▲ (株)大林組工事現場事務所の方々と

武蔵野音楽大学 江古田新キャンパス 堂々竣工！

2011年、さらなる教育・研究環境の向上を目指してスタートした「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」。ベートーヴェンホールのみを保存・改修し、それ以外の江古田キャンパスのすべての校舎を建て替えるという一大プロジェクトだけに、学園と設計・施工会社である株式会社 大林組をまじえての数限りない綿密な会議、打ち合わせが、5年半の間行われました。

2015年4月1日、60年あまりお世話になった旧校舎の解体工事が始まり、同年7月21日には新キャンパスの起工式を挙げる。住宅街という立地、実に多様な用途の校舎群、

非常に高い建築密度といったハードルの多い超難関プロジェクトにも関わらず工事は順調に進み、解体開始から約2年経過した本年1月31日に竣工。2月13日に無事、竣工式が執り行われました。

従来、江古田と入間の両キャンパスで行っていた武蔵野の教育・研究が、今後はこの新キャンパスに集結されます。音楽の可能性を無限に広げる、魅力に満ちた江古田新キャンパスの全貌をご覧ください。

※なお、本号で掲載している各写真は、楽器や椅子等の什器が撤入、設置されていない時点のものを含んでいます。





❖ アトリウム (メインエントランス)

大学の活発なアクティビティを発信するキャンパスの顔

社会に開かれた大学の象徴であるエントランスは、確かな存在感を持ちながらも、外部からもキャンパス内部を伺い知ることができるように透明性の高いデザインとなっています。心地良い開放感を与える3層吹き抜けのアトリウム内には、上部にブリッジが渡りキャンパスの回遊性を確保すると共に、外部に大学の活発なアクティビティを発信します。また夜は一転して柔らかな光に包まれたガラスボックスとなり、音楽研究の拠り所としての暖かい表情を魅せます。



❖ リストプラザ

多彩な交流を促進する「キャンパスのコア」

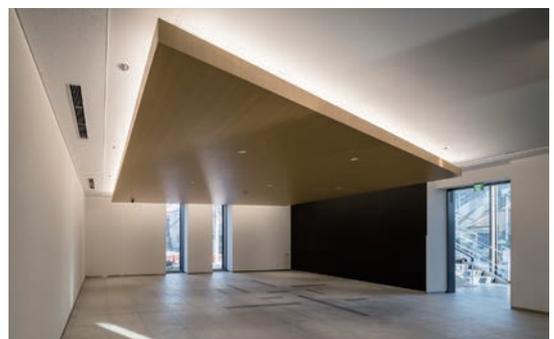
地下1階に掘り下げたキャンパス中央に位置するリストプラザは、キャンパスレストランや図書館、楽器ミュージアム等に囲まれた新キャンパスの中心です。周囲を異なるデザインの建物に囲まれた空間は、あたかも西欧のプラザのように、ある時は憩いの場、ある時は大階段を客席に見たてた屋外イベント空間となります。人々が行き交い、集い、新しい交流を生み出す場所としてこの広場が機能することで、新たな都心型キャンパスの姿が実現しています。



❖ メインロビー

さまざまな人が行き交う開放感あふれる空間

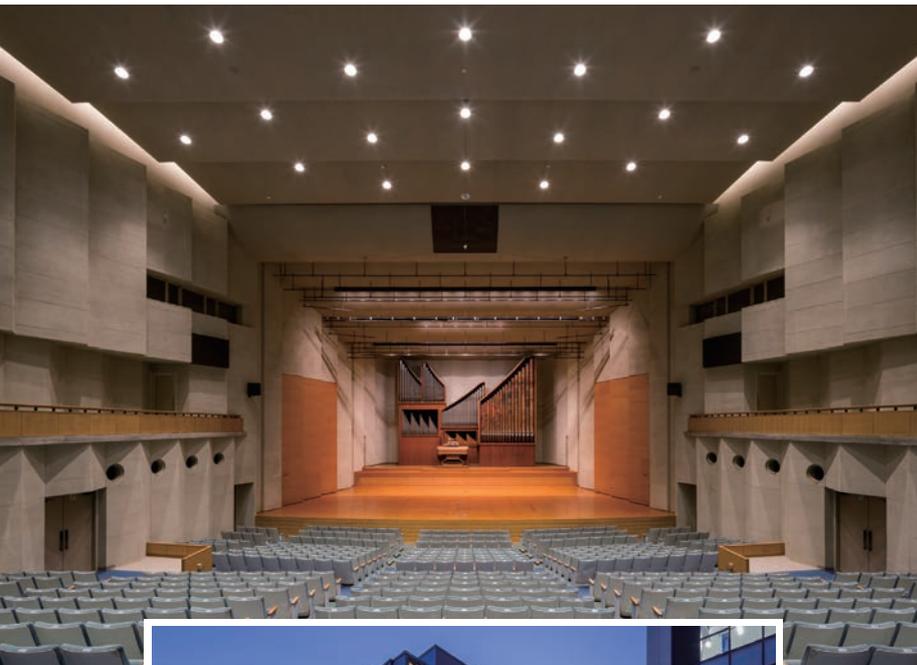
アトリウムから連続した事務部門や掲示コーナーがある2層吹き抜けのメインロビーは、ガラス張りによってリストプラザと一体になった開放感あふれる空間で、さまざまな人が行き交う待ち合わせにも最適なスポットです。プラザに面した2基のエレベーターはシースルーになっており、上階に行く際にはキャンパスを一望することができます。



❖ ヴェルディロビー

アトリウムから連続したキャンパスのリビング

E棟1階ロビー周辺には、ヴェルディ像(イタリア共和国より寄贈)のほか、ヤマハ銀座店ショップ、コピーコーナー、学生用掲示板が設置されています。情報交換、くつろぎ、待ち合わせなどに利用できる、学生にとってのキャンパスのリビングのような空間です。



❖ ベートーヴェンホール

音響特性を変えずに再オープンした本邦初の本格的なコンサートホール

昭和35年に日本で初めての本格的なコンサートホールとして生まれたベートーヴェンホールは、音響効果の良いホールとして国内外から注目を集め、音楽ファンにも長年親しまれてきました。記念碑的な存在である本邦初のコンサートオルガンのほか、電動化されたオーケストラピット、オペラ上演のための舞台機構なども有しています。新校舎群竣工に併せた2017年の改修は、本学ならびに日本のコンサートホールの歴史を象徴する存在としての役割を継続し、長年慣れ親しんだ雰囲気、音響特性を可能な限り変えないことをコンセプトとしました。具体的には、建築構造の補強とホール天井の落下防止対策による耐震化、防災設備の設置のほか、静粛性の向上、空調・衛生・照明・舞台等機器の更新、バリアフリー化（エレベーターや車椅子利用者用客席の設置）、各階ホワイエを中心とした内装リフレッシュ等を行い、より安全で使いやすい施設に生まれ変わりました。客席数は1,051席。



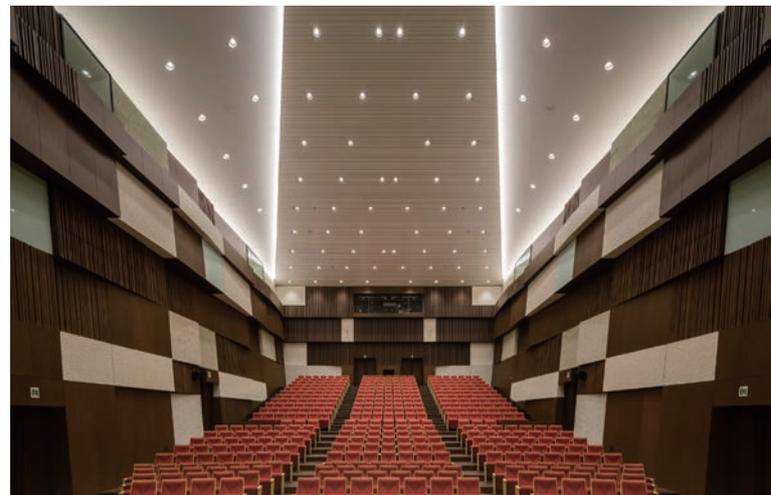
▲ ベートーヴェンホール外観



❖ モーツァルトホール

クラシカルでありながらモダンな印象を併せ持つヨーロッパのサロン風ホール

本学3代目となる「モーツァルトホール」は、リサイクル・室内採用の約100席のホールで、学生がお互いを触れ合う場として自由に活動できる使い勝手の良いホールです。いかにも練習用ホール然としたものではない、通常の授業とは違うハレの場とすることで学生の意欲を最大限に引き出すことを目指し、クラシカルでありながらモダンな印象も併せ持つヨーロッパのサロンをイメージしました。正面には2代目モーツァルトホールから移設した伝統あるパイプオルガンを据えつつ、自由な演奏形式に対応した設備を備えて学生の多様なニーズに応えます。また、2代目のロビーにあったモーツァルト像（オーストリア共和国より寄贈）をホール内に設置しています。



❖ ブラムスホール

最新の音響設計に基づいた意欲的なデザインの中ホール

世界的な建築音響コンサルタントである永田音響設計の監修による、423席の中ホールです。木や石（大谷石）といった伝統的な材料に、タイルやガラスといった異なる音響特性をもった近代的な材料を組み合わせることで新しい響きを実現した、意欲的なデザインとなっています。壁面は最適な音響を実現するために上部に行くにしたがって広がっており、その特徴的なデザインや14mという天井の高さと相まって、演奏者と聴衆のドラマティックな一体感を生み出しています。ホワイエは、ガラス張りの吹き抜け空間の中に大階段が設けられた、開放的でダイナミックな空間です。昭和35年に初代モーツァルトホールとして誕生し、その後楽器陳列室、大講義室として親しまれてきた旧校舎447室のクリスタル照明を、本学の伝統の象徴として再び設置しています。



▲ ブラムスホール ホワイエ



▲ オーケストラホール

❖ 3つのリハーサルホール

編成・演奏の特性を考慮し
室形状が最適化された大規模練習ホール

オーケストラ、大合唱、ウィンドアンサンブルのための大規模な各専用リハーサルホールは、賑わい空間であるリストプラザから離れた3つのコンサートホールに隣接し、互いに連携した利用が可能です。各ホールは、室内音響に配慮して壁・天井の平行面を排した本格的なデザインで、それぞれの編成の特性を考慮し室形状が最適化されているほか、吸音カーテンにより本番で利用するホールに合わせた響きに調整可能です。また仕上げや色彩を変えることで、各ホールの個性が際立つよう配慮しています。



▲ コーラスホール



▲ ウィンドアンサンブルホール

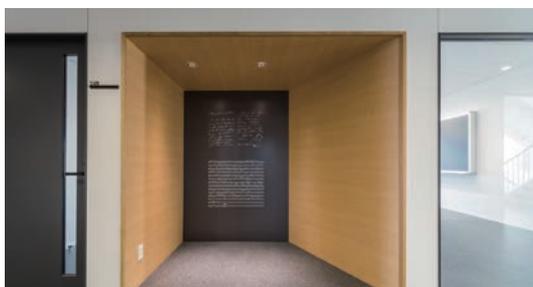
❖ レッスン室・教室前共用部

コミュニケーションを活発化させる
各ゾーンの機能に応じデザインされた共用空間

レッスン室は教員と学生の1対1の真剣な教育、対話の場です。しかし大学という皆が共に研鑽する場では、何気ない仲間との会話や通りすがりの教員のアドバイスも、研究生活におけるかけがえのない要素です。新キャンパスでは、対話やリフレッシュのための仕掛けとしてレッスン室に囲まれたラウンジが随所に設けられているほか、画一的な空間となりがちな廊下も、各ゾーンの機能や形態に応じ、さまざまな印象を持った共用空間としてデザインされています。また景色を眺められる窓、本学所蔵の大作曲家による自筆譜・手紙によるグラフィックなどが随所に配されています。



▲ レッスン室前ラウンジ



▲ 教室に囲まれたコミュニケーションスペース



▲ 練習室前廊下



❖ 録音スタジオ

充実の設備・仕様でプロユースにも対応

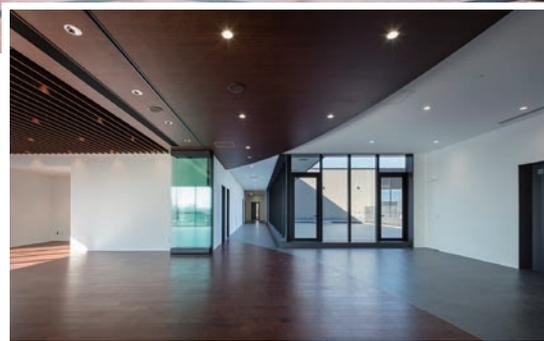
四重奏程度の編成までの録音が可能なたら広さをもつ録音スタジオは、遮音性能が極限まで高められ、プロユースにも耐えられる静けさを実現しています。またコントロールルームには音声編集が可能なたらさまざまな機材を取り揃えており、音響機器の操作方法に関する授業の他、ケースによってはオーディション応募用の録音にも使用されます。



❖ 展望ラウンジ “Bis”

一大パノラマを楽しめる語らいの場

校舎最上階のS棟5階にはドリンクや軽食を楽しめる展望ラウンジを設け、学生同士や学生と教職員の語らいの場を提供します。ここからは東に東京スカイツリー、南に新宿副都心、西に富士山を望む一大パノラマを楽しむことができます。また、キャンパス内の各所にエレベーターが適正に配置されていますが、展望ラウンジに接したエレベーターホールは、ラウンジと外部のテラスとの一体的な利用が可能であり、レセプションやパーティーなどに活用されます。



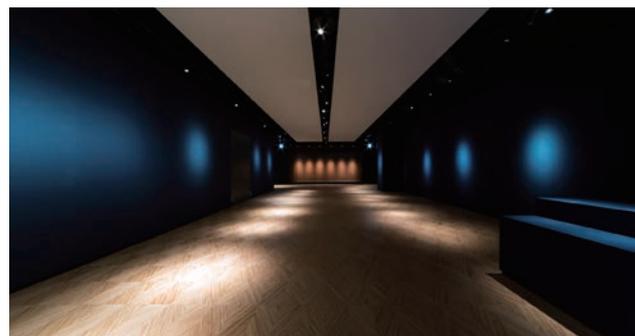
▲ 展望ラウンジ “Bis” に接したエレベーターホール



❖ 図書館

それぞれ特徴をもつ3層構成による快適で居心地の良い知的空間

図書館は、キャンパスの特徴を活かした3層構成になっています。アトリウムを抜けリストプラザ上にかかるブリッジを渡ると、すぐそこが図書館入口です。中に入ると総合受付カウンターが設置されたメインフロア（1階）があり、吹き抜け階段添いにある大壁画書架を經由して上階にあがると、豊富なAV資料を中心としたサイレントフロア（2階）が、下に降りるとプラザに面したオープンな雰囲気のあるラーニングcommonsとグループ学修室によるアクティブフロア（B1階）が現れます。計約30万点の知的好奇心をくすぐる日本有数の所蔵音楽資料は、ICT技術を使ったシステムにより、いつでも利用することができます。



❖ 楽器ミュージアム（2018年開館予定）

洗練されたデザインによる日本最大の楽器コレクション展示

2018年、日本最大の楽器コレクションが再び江古田に集結し、「楽器ミュージアム」と名称を変え、大学と社会をつなぐ窓口となります。ナポレオン三世や、クララ・シューマンが所有していたピアノをはじめとする歴史的鍵盤楽器類はもちろん、ヴァイオリンの名器群や木管楽器の体系的コレクションなどの西洋クラシック楽器の数々のほか、わが国が誇る邦楽器の名品コレクション、世界各地の民族楽器を、デザインが異なる4ゾーンに分け、これらもつ魅力を最大限に引き出すように美しく、かつわかりやすく展示します。洗練されたインテリアデザインの館内からは、ガラス越しにリストプラザを見渡すことができます。



❖ キャンパスレストラン “Intermezzo”

キャンパスの賑わいを感じることで有名レストラン運営のカフェテリア

有名レストラン「銀座スエヒロ」が運営を手掛ける、広場に面して自然光を取り入れた開放的なレストランです。カフェテリア形式で多彩なメニューを提供し、天気の良い日には屋外でも食事をしながら、四季の変化やキャンパスの賑わいを感じることができます。

がんばりました！ 三幼稚園発表会

桃の節句も間近い2月末、武蔵野音楽大学第一・第二・武蔵野の各幼稚園では、「ひなまつり音楽会」や「表現発表桃の会」を行いました。

本園では日々の保育活動に楽器レッスン、さらに音楽の基礎指導の一



つであるカール・オルフのメソードを取り入れています。発表会で園児たちは、これまで親しんできたバイオリンや木琴、打楽器などの合奏、合唱を披露。緊張しながらも練習の成果を十分に発揮した子どもたちは、保護者をはじめ、たくさんの聴衆から温かい拍手をいただき、とても嬉しそうでした。

また、3月2日には卒園を目前にした園児と保護者を対象に、三園合同の音楽鑑賞会が入間キャンパス内バウナールで開催されました。音楽大学ならではのコンサートホールで、大学



生と大学院生によるハーブやホルンの演奏を鑑賞した園児たちは、なかなか耳にすることのない楽器の豊かな音色に聴き入りました。幼稚園での楽しい思い出がまた一つ心に刻まれたことでしょう。



着任外国人教授紹介 (平成29年度前期)



ケマル・ゲキチ Kemal Gekić (ピアノ/クロアチア)

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。1981年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。1985年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て「最優秀ソナタ特別賞」受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。



クリスティアン＝フリードリヒ・ダルマン Christian-Friedrich Dallmann (ホルン/ドイツ)

ハンス・アイスラー音楽大学にてクルト・パルムのもとで研鑽を積んだ後、1978年にマルクノイキルヒェン国際音楽コンクールホルン部門で第1位受賞。同年ベルリン交響楽団(現ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団)のソロホルン奏者となり、以後22年以上首席奏者を務めた。またヘルムート・リリング音楽監督のもとシュトゥットガルト国際パッサカデミーに招かれ、数多くのプロジェクトでソロホルンを担当。さらに古楽器による演奏活動もベルリン古楽アカデミーのメンバーとして行い、国内外への多くの演奏旅行とCDの録音を行った。ハンス・アイスラー音楽大学、デトモルト音楽大学を経て、現在はベルリン芸術大学教授として後進の指導にも当たり、優れたホルン奏者を多数輩出している。



レイ・E. クレーマー Ray E. Cramer (ウインドアンサンブル指揮/アメリカ)

アメリカで高く評価されるインディアナ大学音楽学部で、2005年まで吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、また2009年まで著名なミッドウェスト・クリニック会長の要職も務めた。これまで全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任する他、インディアナ大学最優秀教授賞、Phi Beta Mu 国際優秀賞等多くの賞を受賞。2012年には権威ある National Band Association Hall of Fame of Distinguished Conductors (吹奏楽の優れた指揮者の栄誉殿堂)に選ばれ、全米、日本等で客員指揮者、指導者、審査員として広く活躍している。武蔵野音楽大学名誉教授。

MUSASHINO 掲示板

平成28年度音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂)

平成29年3月22日、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が、皇后陛下ご臨席のもと開催されました。本学からは、主演：森万佑子さん(メゾ・ソプラノ独唱)、助演：鈴木千尋さん(ピアノ伴奏)が出演し、マスネ作曲 歌劇《ウェルテル》より「手紙の歌」を披露いたしました。

武蔵野音楽大学合唱団が出演 柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会が受賞

昨年11月に開催され、本誌120号でお伝えした「柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会」(指揮：山田和樹 出演：日本フィルハーモニー交響楽団、東京混声合唱団、武蔵野音楽大学合唱団 会場：サントリーホール)が、平成28年度文化庁芸術祭・音楽部門にて大賞を受賞しました。この演奏会の模様は、去る2月12日、NHK Eテレ「クラシック音楽館」で放送されました。

平成28年度クロイツァー賞受賞者

わが国のピアノ音楽発展に寄与したレオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。教授とゆかりが深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。平成28年度、本学からは飯田 茜さんが選ばれました。

記念演奏会は、平成29年7月9日14:00 東京文化会館小ホールで開催されます。

来年度リニューアルオープン 武蔵野音楽大学楽器ミュージアム

この4月から武蔵野音楽大学は「江古田新キャンパス」をスタートさせましたが、武蔵野音楽大学楽器博物館は、2018年春、この新キャンパス内に楽器ミュージアムと名称を変更してリニューアルオープンいたします。ナポレオン三世やクララ・シューマンが所有していたピアノをはじめとする西洋楽器の名器、水野コレクションに代表される邦楽器の名品、世界各地の民族楽器などの貴重な資料が再び江古田に集結し、広く一般に公開されます。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成28年11月1日から平成29年2月15日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、ご寄附いただけるようになりました。クレジットカード決済により簡単にお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】 石井百代様 岩間和子様 岩間 繁様 岩間 眞様 牛渡 純様 江口裕子様 大羽真紀子様 川上路子様 川谷登喜子様 黒森陽子様 齋藤紗子様 実藤千恵子様 下道ヨシ子様 達村和佳子様 徳王雅美様 鳥垣正子様 長瀬清正様 中村由美様 昭和46年卒業生有志様 同窓会宮城県支部様

【在学生・同ご父母】 泉 茂美様 辻 広巳様

【役員・教職員・一般・他】 浅野しのぶ様 岡 珠世様 加島良和様 高坂朋聖様 小門敬子様 重松 聡様 清水直美様 高橋冬彦様 辻 美禰子様 富樫英夫様 戸田史郎様 長尾立矢様 守重信郎様 渡邊規久雄様

(他に匿名を希望される方14名)

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- Phi Beta Mu International Bandmasters Fraternity (アメリカ) Outstanding Bandmaster Award受賞 武田 晃(昭和55年大学トランペット専攻卒業)
- ジュゼッペ・アチェルビ国際音楽コンクール2016 (イタリア) ピアノカテゴリーE 第1位入賞 須田詩織(平成24年大学ピアノ専攻卒業)
- 第3回インターナショナル・パーカッション・コンペティション(イタリア) マリンバ部門 第3位入賞 倉田沙紀(平成21年大学マリンバ専攻卒業)
- 第46回イタリア声楽コンクール 三部門共通 金賞受賞 曾我雄一(平成12年大学声楽専攻卒業)、●第10回横浜国際音楽コンクール 弦楽器部門 一般Aの部 第1位入賞 原 悠一(平成23年大学チェロ専攻卒業)、●第2回ロシア声楽コンクール プロフェッショナル部門 学生の部 第1位入賞 奥秋大樹(平成28年大学声楽専攻卒業、本大学院1年)、●第8回コンコルソ・ムジカアルテ ステッラ部門 グラン・プレミオ(優秀大賞)受賞 澤井聖子(平成6年大学ピアノ専攻卒業)、●第21回JILA音楽コンクール 弦楽器部門 第2位入賞、現代音楽特別賞受賞 原 悠一(平成23年大学チェロ専攻卒業)、●第19回“長江杯”国際音楽コンクール 声楽部門 一般の部A 第2位入賞 須田みづき(平成17年大学声楽専攻卒業)、●第8回さくら音楽コンクール 声楽部門 一般A1 第2位入賞(1位なし) 須田みづき(平成17年大学声楽専攻卒業)、●第2回K作曲コンクール 第2位入賞 小田実結子(平成28年大学作曲専攻卒業、本大学院1年)、●中学生・高校生のための第13回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト 打楽器部門 グランプリ クリスタルミュージズ賞受賞 原島愛日(附属高校3年打楽器専攻)、木管楽器部門 グランプリ クリスタルミュージズ賞受賞 佐々木成美(附属高校2年サクソフーン専攻)、●第19回“長江杯”国際音楽コンクール 管楽器部門 高校の部 第3位入賞(1位なし) 小山功起(附属高校2年フルート専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成29年度 夏期講習会のお知らせ

平成29年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会(音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習)を、下記のとおり実施します。

講座名	期間	会場
大学受験講習会	1期: 8/ 1～8/ 4 2期: 8/ 5～8/ 8 3期: 8/28～8/30	江古田キャンパス
高校音楽科受験講習会	1期: 8/ 1～8/ 3 2期: 8/28～8/30	
社会人のための夏期研修講座	7/29～7/31	
免許法認定講習 ※教員免許状更新講習とは異なります	7/24～8/ 4	

※実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。
 ◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項は、大学ウェブサイトからお申し込みいただくか、本学広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。
 大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成29年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成29年度も教員免許状更新講習を開講します(現在認可申請中)。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域6時間と選択必修領域6時間、そして選択領域18時間、合計30時間を開講します。

領域	期間	会場
①必修領域(6時間)	7/22・23の2日間	江古田 キャンパス
②選択必修領域(6時間)		
③選択領域(6時間/1日)		

◎要項は4月下旬発行の予定。要項は、大学ウェブサイトからお申し込みいただくか、本学広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。
 大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成 29 年度 4 月～7 月 演奏会のお知らせ

〈ブラムスホール竣工記念特別演奏会〉武蔵野音楽大学教員による《木管室内楽のタペ》

4月17日(日) 18:30 ブラムスホール(江古田) ¥2,000(全席自由)
 出演=フルート:白尾 隆、オーボエ:北島 章、青山聖樹、クラリネット:山本正治、三倉麻実、ファゴット:岡崎耕治、吉田 将、山田知史、ホルン:山本 真、丸山 勉
 曲目=モーツァルト:セレナード 第11番 変ホ長調 K.375、川辺 真:森のささやき、ベートーヴェン:交響曲 第7番 (HARMONIEMUSIK版)

武蔵野音楽大学大学院修士課程在学学生によるコンサート 4月18日(火) 18:30 ブラムスホール(江古田) 無料(全席自由・整理券不要)

武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会 ～平成28年度卒業生による～

4月24日(日) 19:00 ヤマハホール ¥1,500(全席自由)

武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会 ～平成28年度修士による～

5月10日(水) 18:30 ブラムスホール(江古田) ¥1,500(全席自由)

ニュー・ストリーム・コンサート30 ～ヴィルトウオース学科演奏会～

6月15日(土) 18:30 ブラムスホール(江古田) 無料(全席自由・要入場整理券)

ニュー・ストリーム・コンサート31 ～ヴィルトウオース学科演奏会～

6月16日(日) 18:30 ブラムスホール(江古田) 無料(全席自由・要入場整理券)

〈江古田新キャンパス竣工記念特別演奏会〉ケマル・ゲキチ×福井直昭 ピアノ・デュオリサイタル

6月30日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田) ¥2,000(全席自由)

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

7月11日(火) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 7月15日(土) 18:00 盛岡市民文化ホール(岩手県) 一般¥1,500/小・中・高¥1,000(全席自由)
 指揮=レイ・E. クレーマー
 トロンボーン独奏=田中宏史
 曲目=ショスタコーヴィチ:祝典序曲、ヴァルチック:交響曲 第4番(世界初演)、スミス:フェスティバル・ヴァリエーション
 パーフィールド:レッド・スカイ(トロンボーン独奏:田中宏史)、2017年度吹奏楽コンクール課題曲より 他

お問合せ ●武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます(4月17日を除く)。

平成 29 年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会

武蔵野音楽大学音楽学部や附属高等学校音楽科への進学を検討している皆さん、並びに、指導者、保護者、ご家族の皆様を対象に、オープンキャンパス・学校説明会を開催します! ★の日程または開催地では、同会場で附属高等学校の説明会も開催します。

オープンキャンパス		
日付	メイン企画	会場
4月30日(日)	レッスン公開	江古田キャンパス
6月18日(日)★	ワンポイントレッスン	
7月16日(日)	レッスン公開	
8月27日(日)★	ワンポイントレッスン	

【内容】

新キャンパス各施設公開・ガイダンス(学校紹介)
 ミニコンサート・レッスン公開(4/30、7/16のみ)
 ワンポイントレッスン(6/18、8/27のみ)・個別相談 他
 ※9月以降の催し物については、次号でお知らせします。

学校説明会	
日付	開催地
5月28日(日)	沖縄県浦添市「浦添市てだこホール」
6月11日(日)	福岡県福岡市★「アクロス福岡」
6月25日(日)	北海道札幌市★「六花亭本店きたごぶしホール」(ガイダンス会場) 「ヤマハミュージックリテイリング 札幌店 ヤマハ札幌センター」(レッスン会場)
	宮城県仙台市「常盤木学園」
7月 9日(日)	愛知県名古屋市★「ヤマハミュージックリテイリング 名古屋店」
	香川県高松市★「サンポートホール高松」

【内容】ガイダンス(学校紹介・新キャンパス施設紹介)

武蔵野音楽大学教員によるミニコンサート・ワンポイントレッスン・個別相談

専攻別クリニック 一流講師陣のレッスンで演奏が“変わる”を体験!

演奏技術の向上を目指す生徒の皆さんを対象に各種クリニックを開催します。クリニック当日は一流講師陣によるレッスンが受けられます!

種別	日付	種別	日付	会場
ピアノクリニック	5/7(日)・10/1(日)	弦楽器クリニック	6/4(日)・10/1(日)	江古田キャンパス
管打楽器クリニック	6/4(日)・9/24(日)	声楽クリニック	5/7(日)・11/5(日)	

各催し物は事前の申し込みが必要です。実施内容の詳細につきましては、本学ウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学入学センター TEL. 03-3992-2500 E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

編集後記

ついに幕開けした江古田新キャンパス。優れた音響特性の各種ホールや機能的に洗練・整備された諸施設。音楽を学ぼうえで、最適な環境が整い

ました。竣工式での副学長のお話のように、新キャンパスの実現は数え切れない皆さんのご尽力の賜物です。そうした方々に報いるためにも、学業に、練習に、日々精進したいものです(編)。

シュトロローヴァイオリン

1910年頃 イギリス 全長61cm

シュトロローヴァイオリンは、ロンドンのA.シュトロローが1900年頃に考案した、録音用のヴァイオリンである。この楽器は共鳴胴の代わりにアルミの円盤が音を伝え、そこから突き出した拡声ホーンが音を増幅する。

1877年に、アメリカの発明王T.エジソンは銅製の円筒にすず箔を巻きつけ、そこに刻まれた溝の変化により音を録音・再生する装置を考案した。音が文字のように記録される時代の到来であった。その後の蠟管機やSPレコードの登場により、それまで生演奏でしか鑑賞できなかった音楽が、時と場所を選ばずに気軽に楽しめるものになった。

初期の音楽録音は、音の振動をそのままカッター針で原版に刻み込むもので、「アコースティック録音」と呼ばれる。演奏者は録音用の大きなホーンに向かって演奏するが、録音には大きな音量が必要で、声楽の場合はメガホンを使ったという記録が残されている。しかし、ヴァイオリンのように音が広く拡散する楽器においては、いかに音を集約し、それに指向性を持たせるかが課題であった。シュトロローは、ヴァイオリンにメガホンのような拡声ホーンを付け、その先を録音用のホーンに向けて演奏するヴァイオリンを発明した。左側に突き出した小さなホーンは奏者が自分の演奏を聴きとるためのものである。

このヴァイオリンはスタジオ用楽器として普及し、他のヴァイオリン属の楽器やギター、ウクレレ、マン



ドリンなどにも拡声ホーンが付けられた。この楽器は1924年に電気式録音方式が登場すると姿を消す。武蔵野音楽大学楽器博物館は、シュトロロー楽器のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの希少なセットを所蔵している。(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

❖目次❖

- 伝統と先進が響き合う未来へ ❶
福井直敬
- 「音」にこだわる舞台上演翻訳 ❷
小田島恒志
- 江古田新キャンパスプロジェクト REPORT ⑩ ❸
江古田新キャンパス竣工式
- 特集 江古田新キャンパス 堂々竣工！ ❹
- MUSASHINO NEWS ❺
- ❖がんばりました！ 三幼稚園発表会
- ❖着任外国人教授紹介(平成29年度前期)
- ❖MUSASHINO 掲示板
- ❖武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)
- ❖平成29年度 夏期講習会のお知らせ
- ❖平成29年度 教員免許状更新講習のお知らせ
- ❖平成29年度 4月～7月 演奏会のお知らせ
- ❖平成29年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校
オープンキャンパス・学校説明会
- ❖専攻別クリニック 一流講師陣のレッスンで演奏が“変わる”を体験！

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2017年4月1日発行 通巻第121号